

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2022 年 11 月 17 日作成 第 1.0 版

研究課題名	変形性膝関節症に対して膝関節温存手術を施行例の骨形態の評価
研究の対象	2016年4月～2021年3月の間に、横浜市立大学附属市民総合医療センター病院整形外科で変形性膝関節症、骨壊死と診断された患者さんで膝関節温存手術を受けた患者さんのうち、手術当時の年齢が20歳以上の方を対象とします。
研究の目的	変形性膝関節症、骨壊死疾患の治療において、膝関節温存手術が広く行われていますが、近年下肢の荷重軸を矯正する際に大腿骨の骨切り術と脛骨の骨切り術が行われることが増えてきました。大腿骨と脛骨のどちらか、または両方同時に骨切り術を受けるのが好ましいかは十分に解明されておらず、膝関節温存手術を受けた患者さんの骨形態を明らかにすることで、膝関節温存手術である骨切り術は大腿骨と脛骨のどちらか、または両方に行った方が形態学的に好ましいかを検証し、今後の医療に役立てることを目的としています。
研究の方法	診療録から情報を収集して、レントゲン画像、膝関節の変形の具合、年齢、性別、身長、体重について検討します。 いずれも通常の診療で得られた情報・検体を用いますので、研究対象の方のご負担になることはありません。
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 西暦 2024 年 3 月 31 日
研究に用いる 試料・情報の 項目	【情報】診療録から以下の情報を収集します。 ・背景情報：年齢、性別、診断名、身長、体重、臨床病気 ・画像所見：X線写真
試料・情報の 授受	本研究では、外部機関との検体・情報の授受はありません。 情報は、当院で少なくとも5年間保管します。廃棄する際は、個人を特定できないように処理した上で検体は院内の規定等に従って廃棄し、情報は復元できない方法で廃棄します。
個人情報の管 理	情報は、個人名など単体で個人を特定できる情報を削除し、研究用の番号（識別コード）で管理します。必要時に個人を照合できるよう管理する表（以下、対応表）を作成して、識別コードから個人を特定することが可能になりますが、その対応表は当院外へ提供することはありませんので、当院外の機関が個人を特定することはできません。
試料・情報の 管理について 責任を有する 者	当院の個人情報の管理責任者は病院長ですが、その責務を以下の者に委任され管理されます。 研究責任者：横浜市立大学附属市民総合医療センター 整形外科 高川 修

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

利益相反	本研究は、大学の基礎研究費を用いて行います。本研究で効果を検討する会社と本研究の研究者の間に、開示すべき利益相反はありません。
研究組織 （利用する者の範囲）	【研究機関と研究責任者】 横浜市立大学附属市民総合医療センター 整形外科 高川 修
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先までお申出下さい。</p> <p>また、情報が当該研究に用いられることについて研究の対象の方もしくはその代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも研究の対象の方に不利益が生じることはございません。ただし、拒否のお申し出をいただいた段階で既に研究結果が公表されていたときなど、データから除けない場合があります。</p>	
<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57 横浜市立大学附属市民総合医療センター 整形外科 （研究責任者・問い合わせ担当者）高川 修</p> <p>電話番号：045 - 261 - 5656（代表）</p>	